

武腰氏の作品群



九谷焼モニュメント「甞 世紀をこえて」
(1993年) =能美市泉台町

日展内閣総理大臣賞
「静寂」(2001年)



日本芸術院賞
「湖畔・彩釉花器」(2010年受賞)



陶芸家で金沢学院大学
美術文化学部特任教授の
武腰敏昭氏が先ごろ、日



武腰敏昭氏

本芸術院の新会員に選ば
れました。金沢学院大学
教授で日本芸術院会員に
就任するのは大樋長左衛
門、中路融人、村田省藏
の3氏に次いで4人目と
なります。12月15日付で
高木義明文部科学相が発
令します。

武腰氏は金沢美大を卒
業後、日展を中心に活躍
し、伝統的な九谷焼のつ
ぼや皿から、陶製のオブ
ジェやレリーフまで変化
に富む多彩な作風を発表
してきました。

本芸術院賞を今年春に受
賞し、その年のうちに新
会員に就任するという工
芸分野では異例の巡り合
わせとなりました。

日本芸術院は、芸術上、
顕著な功績のあった人を
優遇するための栄誉機関
です。美術、文芸、音楽・

壁面モザイク「未来」
(1985年)



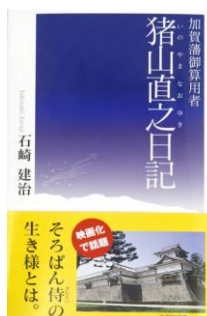
金沢学院大教授で4人目

芸術院会員に武腰氏

演劇・舞踊の3分野があ
り、定員は120人。毎
年度、会員の投票で新会
員を選考します。本年度
は会員推挙のあった18
人から5人が選ばれ、会
員は計110人となりま
す。会員は非常勤の国家
公務員扱いとなります。

石崎准教授は古書店で
「日記」を手にして以来
研究、翻訳してきた内容
を一直之、加賀藩に出仕
する「御次執筆役の
日々」など全5章にまと
めました。映画の原作が
猪山家の家計簿を題材と
したのに対し、石崎氏は
主に「日記」から御算用
者(会計専門の武士)の
暮らしぶりを紹介してい
ます。

新書判、304頁で、
定価1千円(税込み)。



著者は、金沢学院大学
美術文化学部の石崎建治
准教授です。

「猪山直之日記」出版
映画「武士の家計簿」
の主人公として描かれて
いる加賀藩士、猪山直之
が1830(文政13)年
から45年間にわたって
書いた「日記」を解説し
た時鐘舎新書「加賀藩御
算用者 猪山直之日記」
II写真左IIが先ごろ、北
国新聞社から発売されま
した。